若年者の自転車利用に関する危険な状況の分類

— テキストマイニングによる考察 —

○中西誠¹・治部哲也²

(¹関西大学大学院心理学研究科・²関西福祉科学大学健康福祉学部)

キーワード：自転車・危険状況・若年者

Classification of Bicycle-Related Risky Situations

Makoto NAKANISHI¹, Tetsuya JIBU²

(¹Graduate School of psychology, Kansai Univ., ² Faculty of Health and Welfare, Kansai University of Welfare Sciences)

Key Words: bicycle, risky situations, young rider

目 的

近年、エコブームや健康志向により、自転車の利用台数は増加している。自転車は、交通参加者の中では、歩行者について交通弱者として分類される事が多いが、一方で、加害者にもなりうることも多い交通参加者である。実際に自転車同士や歩行者に対しては、事故が起こったときの損害も大きく、今後、自転車は交通参加者の中でも重大な問題となりうる事が考えられる。

警察庁の発表によると、昨年度は、第一当事者、第二当事者を問わず14万4,018件の自転車に関する交通事故が発生している。その中でも、自転車乗車中の死者数は、16歳～24歳までの構成率が22.0%と、他の年齢層よりも若年層の方が高くなっている。そのため、今後の自転車利用者の増加を考えると、若年層の自転車事故がより大きな問題となり得ることが考えられる。

そこで本研究では、若年者を対象に、自転車に関わる危険な状況を調べ、テキストマイニングにより分類を行った。

方 法

1. 調査対象者および調査方法

2012年10月～2013年2月の間、関西にある四年制大学、女子短期大学、専門学校に在籍する18歳～24歳までの学生286名に対して授業中に質問紙を配布しその場で回収した。また回答するにあたり、無記名で回答を求めた。分析には、質問項目に欠損があった対象者を除外し、278名を最終的な対象者とした。対象者の平均年齢は19.27歳(SD=1.48)であった。性別構成は男性:118名(42.4%)、女性:160名(57.6%)であった。

2. 質問紙の構成

①自転車危険状況

(1)自転車利用時の危険状況の自由記述：「あなたが自転車を運転している時に、事故を起こしそうになったり、危ないと思ったりしたことをお書きください。例を参考にして、その時の状況や、あなたの行動がよくわかるように、なるべく詳しくお書きください。」という問いにたいして、自由記述で回答をもとめた。

(2)状況の危険度評定：記述した状況に対する危険度を「1. 全く危険を感じなかった」から「4. とても危険を感じた」の4件法で評定を行わせた。想起できる危険な状況が複数ある場合は、最大で3つまで記述させた。

結 果

回答の得られた自由記述に対して、テキストマイニングを行い、危険な状況の分類を行った。自転車利用時について、文章を対象としたクラスター分析(Ward法)を行った結果、11クラスターを抽出した。各クラスター名と、危険度評定結果を表1に示す。各クラスターの危険度にたいして分散分析を行ったところ、有意な差はみとめられなかった($F(10, 305) = 6.79$ $n. s.$)。

表1 危険な状況のクラスターと危険度評定

危険な状況のクラスター	危険度の平均値	文章数
歩道走行時	3.40	40
狭路走行時	3.50	28
車両側の不確認	3.36	45
ルール違反	3.43	67
道路障害	3.30	27
危険予知不足	3.43	7
マナー違反	3.24	17
ふらつき運転	3.28	43
整備不良	3.20	5
雨天走行時	3.14	7
車間距離不足	3.40	20
全体	3.37	306

考 察

本研究の結果から、若年者の自転車利用時に遭遇する危険な状況は、11のクラスターに分かれた。しかし、各クラスターの危険度評定に有意な差は認められなかった。今後は、各クラスターの代表的な文章を元に、質問項目を作成し危険度に差異があるか検討する必要があると考えられる。

(なかにし まこと, じぶ てつや)

本研究は、「公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団」による研究助成の一環で行った。